

平成 29 年 2 月 27 日

2017 年 3 月期第 3 四半期決算アナリスト説明会質疑応答議事録

日時 平成 29 年 2 月 3 日 13:30 - 14:30
場所 ステーションカンファレンス東京 601A B
参加人数 104 人
当社出席者 代表取締役 副社長 畑 佳秀
執行役員 広報 I R 部長 片岡 雅史

質疑応答

Q 1

加工事業について数量の拡大を図ったとの事だが、来期どの様にトップラインを伸ばしていくのか？またコストダウン効果は来期どの位発現するのか？

A 1

今期は、主原料価格低減の一部を原資に、主力ブランドの増量や販社専売商品を投入し販売数量を増加させる事でシェア拡大を図った。来期は下期から想定される原材料価格上昇分を、新商品投入等による数量拡大で吸収し、利益を確保していく。また業務用商品が好調に推移し、定番商品の導入が進んでいる為、数量の下支えになると考えている。コストダウンについては、今期新工場竣工に伴う他工場との製造ライン調整の為、一時的に経費増になっているが、現在製造コスト削減に取り組んでおり、新工場竣工の効果は出てくると考えている。

Q 2

豪州事業について、豪州国内の牛頭数回復は来年度との公的予測だったと思うが、来年の見通しに変化はないのか？また仕入コストは軽減されていくのか？

A 2

M L A 発表によると飼養頭数は 2017 年に回復、処理頭数は 2018 年に現状より改善との事だが、素牛価格については若干落ち着いており、M L A の発表数値と感覚的に一致。豪州については回復局面に入ったと考えている。

Q 3

フード事業は今まで好調に業績を伸長させてきたが、この第3四半期だけを見ると、数量伸長しても、減益となった。要因は何か？

A 3

前期非常に好調であった為、ハードルが高かった。全体の販売数量については伸長させることが出来たが、外食チャネルが昨年に届かなかった。

外食チャネルの開拓については、現在首都圏、近畿エリアで駐車場事情や、道路状況を鑑みて軽自動車による配送を進めており、同時に外食店の業態に適したカット商品の提供など個別ニーズにきめ細かく対応していく。

Q 4

2017年の食肉市況について、潮目が変わって来ていると思うがどの様に見ているのか？

A 4 輸入牛肉については米国で増産体制になっているが、出荷も多くなっている為、ゆるやかな価格上昇を見込む。

輸入豚肉については、米国生産が好調。輸出も出荷が増加している為、市況は堅調と見込む。

輸入鶏肉についてはブラジルの生産が思いのほか増加せず、疾病等の影響もあり、価格は上昇すると見込む。

Q 5

新商品の価格帯が他社主力ウインナーと同価格帯になるがどの様に差別化を図るのか？

A 5

他社主力ブランドと同価格帯になるが、品質で差別化を図っていく。

Q 6

市販冷食販売会社を社名変更するとの事だが、現状冷食部門での課題は？

A 6

ニッポンハムグループの強みを活かしたアイテムを拡充させていく。生産体制についても最適なものを検討していく。

Q 7

加工事業の市場動向の見方は？

A 7

ハム・ソーセージについては一昨年のWHO報道の影響が有りシュリンク傾向であったが、昨年末から徐々に回復傾向にある。

Q 8

来期見込まれる原料価格高騰はどの様に吸収していくのか？

A 8

製造体制の最適化を図っていく。設備投資等を実施し、コスト改善を図っていく。

以上